

民生福祉常任委員会記録
(所管事務調査)

平成31年1月18日

【開催日】 平成31年1月18日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午後2時13分

【休憩時間】 午前10時40分～午前10時50分

午前11時27分～午前11時35分

午後 0時 2分～午後 1時

午後 1時 8分～午後 1時12分

【出席委員】

委員長	吉永美子	副委員長	山田伸幸
委員	大井淳一朗	委員	杉本保喜
委員	恒松恵子	委員	松尾数則
委員	矢田松夫		

【欠席委員】 なし

【委員外出席議員等】

議長	小野泰		
----	-----	--	--

【執行部出席者】

福祉部長	岩本良治	福祉部次長兼高齢福祉課長	兼本裕子
福祉部次長兼国民年金課長	桶谷一博	健康増進課長	尾山貴子
健康増進課長補佐	銭谷憲典	健康増進課主査兼母子保健係長	大海弘美
健康増進課成人保健係長	古谷直美		
子育て支援課長	川崎浩美	子育て支援課課長補佐	別府隆行
社会福祉課長	岩佐清彦	社会福祉課地域福祉係長	桑原睦
市民部長	城戸信之	市民部次長兼市民生活課長	藤山雅之
市民生活課課長補佐	山本満康	市民生活課課長補佐	亀崎芳江

【事務局出席者】

事務局長	中村聡	議事係主任	原川寛子
------	-----	-------	------

【付議事項】

- 1 所管事務調査 健康マイレージについて（健康増進課）
- 2 所管事務調査 空家対策について（市民生活課）
- 3 所管事務調査 子育て支援について（子育て支援課）
- 4 所管事務調査 地域福祉計画・地域福祉活動計画について（社会福祉課）

1 所管事務調査 健康マイレージについて（健康増進課）

【議事の概要】

- ・健康マイレージ事業の先進地である臼杵市を委員会で視察した結果を執行部に報告し、本市の現状について調査を行った。

（本市の状況）

健康マイレージ事業は今年度から開始し、1月31日まで実施予定
チャレンジシートを入手し、35ポイントためて、特典カードと交換し、
サービスを受けるという県の健康マイレージに参加する形で実施
チャレンジシートは昨年8月末現在で8,226枚配布
特典カードは1月12日時点で253枚交付

【主な質疑】

吉永美子委員長 今後の展開予定は何かあるか。

尾山健康増進課長 健康行動を起こすには運動、スポーツも必要ではないかと
考え、地域振興部と福祉部が一緒になって、スポーツをしたときに点数
が付けられないかなど協議は行っている。

山田伸幸副委員長 協力店はどのくらいあるのか。

古谷健康増進課成人保健係長 市内の協力店は3店舗で、果子乃季厚狭店、花
の海、クスリ岩崎チェーンである。

山田伸幸副委員長 協力店を増やす努力はどのようなものがあるか。

古谷健康増進課成人保健係長 今年度は4店舗にする目標に向け、努力してい
るところである。

山田伸幸副委員長 特典カードの有効期限はいつまでか。

古谷健康増進課成人保健係長 3か月間使用できるが、使用回数は協力店によ
って違う。

山田伸幸副委員長 商工労働課との連携はどうなっているか。

尾山健康増進課長 店舗の拡大は課題と考え、職域の連絡会議等を利用し、登
録の投げ掛けはしていきたい。

大井淳一郎委員 敬老の日のセールなどがあるので、他課と連携すれば声を掛
ける先はあるのではないか。

尾山健康増進課長 現在、そのような連携は行えていないが、検討したい。

恒松恵子委員 県の事業だが、市が独自に協力店を募集することに制限はある
のか。

尾山健康増進課長 県の登録店になることを市が促すことになる。

恒松恵子委員 酒造組合や菓子組合、商店街組合などの業界団体に働き掛けれ

ば市内の店舗が増えるのではないかと思うので、お願いしたい。

山田伸幸副委員長 市独自の取組は考えているか。

岩本福祉部長 県事業を内包する形で市の制度を構築できないかということを中心に検討している。

山田伸幸副委員長 県の制度に参加するだけではなく、市独自に制度を見直す協議をしてもらいたい。

尾山健康増進課長 部内の高齢福祉課や国保年金課だけではなく、地域振興部、スポーツ振興課等と一緒に制度設計自体を検討している段階である。

杉本保喜委員 県内に、独自に拡大する方策を実施している自治体はあるか。

尾山健康増進課長 県内全てを把握しているわけではないが、一部の市では県のマイレージを基にインセンティブの部分だけを市独自で付ける取組をしているところはある。

杉本保喜委員 そういった市の協力店を増やす取組の情報は入っているか。

尾山健康増進課長 把握しているのはインセンティブの部分だけで、抽選で健康器具が当たるなどを行っているところはある。

杉本保喜委員 協力店はいつまでに何店舗増やすのか。

尾山健康増進課長 まずは協力店の登録制度の周知を図っていききたい。

吉永美子委員長 地域で百歳体操に取り組んでいるが、そこで健康マイレージをPRしていないのか。

古谷健康増進課成人保健係長 高齢福祉課と連携し、通いの場で健康マイレージを説明し、チャレンジシートを配布した。

吉永美子委員長 百歳体操のところに行っているということか。

古谷健康増進課成人保健係長 行っている。

吉永美子委員長 若い人に関心を持ってもらう施策はあるのか。

古谷健康増進課成人保健係長 今年度は県制度をそのまま使っているので、対象者は18歳以上だが、小中学校、保育園、幼稚園にチャレンジシートを配布し、保護者に周知した。また、妊娠届出の面接時に若い人たちへの周知を図った。

吉永美子委員長 子どもが健康マイレージに取り組めるようにしないのか。

尾山健康増進課長 対象年齢を広げることも検討している。

吉永美子委員長 来年度にはできるのか。

尾山健康増進課長 早ければ来年度取り組めるようにしたいと考えている。

杉本保喜委員 協力店が増えることによって、参加者も増えるのではないか。

尾山健康増進課長 協力店舗の拡大を行っていききたいと考えている。

吉永美子委員長 臼杵市は臼杵市商店会連合会161店舗と協力体制を組んで

いる。本市の予定はどうなっているか。

尾山健康増進課長 勉強不足でどのようなものがあるか把握していないので、担当課と協議し、検討したい。

矢田松夫委員 健診の無料化は考えているか。

桶谷福祉部次長 特定健診の無料化の県内の状況を調べているところである。

吉永美子委員長 ゼロのところがあるのか。

桶谷福祉部次長 現在はないが、31年度以降検討している市があるという情報は把握している。

矢田松夫委員 無料化すれば健康マイレージ制度が向上するので、早急に検討すべきではないか。

桶谷福祉部次長 現在は他市の状況を分析している状況である。健診の自己負担を無料にすることについては、財源の問題も出てくるので、財源も含め検討していきたい。

松尾数則委員 健康マイレージが思ったほど前に進んでいないのは福祉だけでやっているからではないか。今後、商工労働課などの横の連携を作っていかないと難しいのではないか。

岩本福祉部長 何事も横の連携を構築する必要があると思っている。健康マイレージについては地域振興部と協議を開始した。協力店の拡大については商工労働課の協力が得られればスムーズに進むのではないかと考えているので、来年度以降の改善点として取り組んでいきたいと思っている。

山田伸幸副委員長 地域通貨のようなことにならないようしっかり取り組んでもらいたい。

杉本保喜委員 臼杵市ではグループでの登録制度があるので、本市でも検討してもらいたい。

2 所管事務調査 空家対策について（市民生活課）

【議事の概要】

- ・空家対策（空家バンク）の先進地である国東市を委員会で視察した結果を執行部に報告し、本市の現状について調査を行った。
- ・空家セミナーの紹介（別添のとおり）

【主な質疑】

山田伸幸副委員長 移住に関して担当者はいるのか。

藤山市民部次長 兼務で対応している。

杉本保喜委員 空家セミナーに関し、何か戦略を持っているのか。

藤山市民部次長 管理が不適切な空家を減らすことが一番重要だと考えているので、セミナーは空家対策の最初の大事な事業だと考えている。

杉本保喜委員 セミナーに参加した人たちの情報を収集すれば、次の空家対策に生かせるのではないか。

藤山市民部次長 空家バンクがもしできたなら、周知が重要と考えているので、PRするいい機会であり、積極的に使わなければいけないと考えている。

大井淳一郎委員 空家バンクはどここの部署が作るのか。

藤山市民部次長 計画では企画政策課としている。

大井淳一郎委員 空家の適正管理は市民生活課、空家バンクは企画政策課では、市の方向性が定まらないのではないか。

藤山市民部次長 空家対策全般は市民生活課が担当しており、全体を見て、中心となって進めていかなければいけないという認識はある。企画政策課では空家バンクは転入・定住の一つの施策として考えており、市民生活課と一緒に検討していくことを確認した。

大井淳一郎委員 空き店舗対策や中山間地域の空家対策もあり、商工、農林、総合事務所も含めた体制作りも必要ではないか。

藤山市民部次長 庁内空家対策委員会があり、商工、農林、地域活性化室の課長もメンバーとして入っている。

大井淳一郎委員 若手職員が集まり、空家について報告書を作っていると聞いているが、それは生かされるのか。

亀崎市民生活課課長補佐 空家対策計画を策定する際に空家利活用検討報告書も参考にした。今後、庁内空家対策委員会で協議する際にも活用したい。

杉本保喜委員 国東市のホームページを参考にしてもらいたい。

山田伸幸副委員長 空家対策は市が不動産をやるのではなく、定住希望者が本市に定住し、仕事をし、家庭を作り、末永く生活していく場の提供だと思う。専門の部署を作るべきではないか。市長はどう考えているのか。

城戸市民部長 人員の要望はしている。市長は空家対策協議会のトップなので、中身については全て把握しており、職員体制の整備も必要であるという認識は持っている。

山田伸幸副委員長 専門部署や人員配置について市長が発言したか。

城戸市民部長 具体的な発言はないが、人員の要望はしており、市長、副市長から指示が出ていると認識している。

松尾数則委員 今の空家対策は他市もやっている内容である。もう少し努力してもらいたい。

城戸市民部長 本市の考えは市民の安心安全が第一であり、危険な空家に取り

組んでいる。空家の利活用については企画政策課とも協議している。やるからにはいいものを作りたいという思いがある。

吉永美子委員長 空家等対策計画の中に空家バンクの活用があるので、企画政策課ではなく、市民生活課が先導して、進んでいってほしいと思う。

藤山市民部次長 様々な意見を聞き、企画政策課と一緒に協議していきたい。

3 所管事務調査 子育て支援について（子育て支援課）

【議事の概要】

- ・ 県と共同して進めている子育て支援策及び子ども・子育て総合支援センター運営の先進地である臼杵市を委員会で見学した結果を執行部に報告し、本市の現状について調査を行った。

（本市の取組）

「子育ていいね！スマイルシティ山陽小野田～産んで安心 育てて安心～」をキャッチコピーに8事業をピックアップし、子育て支援に取り組む本市をPRする。

- ①妊娠、出産から切れ目のない寄り添う支援
- ②充実した産科医療体制（市民病院）
- ③乳幼児期からの食育推進
- ④おなかの赤ちゃんと絵本の出会い
- ⑤生活改善とモジュール学習による学力向上
- ⑥小・中学生の学びや育ちをコミュニティ・スクールが応援
- ⑦まち全体で、家庭教育支援チーム
- ⑧乳幼児、子どもの医療費を応援

- ・ 議員提案による「子ども条例」を制定した大分市を見学した結果を執行部に報告し、本市の現状について調査を行った。

（本市の考え方）

28年度に開催した子ども・子育て協議会で条例制定について協議したが、必ずしも今作るべきものではないという意見で一致し、現在、具体的に策定する動きはない。

【主な質疑】

大井淳一郎委員 臼杵市は各種手続も行うことができるが、スマイルキッズで児童手当などの手続は可能か。

別府子育て支援課課長補佐 スマイルキッズは相談機能のワンストップ化を一番の目的としており、各種手続は市役所で行うことになる。

大井淳一郎委員 書類の受付だけでもできないか。

別府子育て支援課課長補佐 簡単な手続であれば受理することも可能だと思うが、面接調査が必要な手続もあり、受理することが難しいものもある。

岩本福祉部長 臼杵市は行政担当の正規職員が5名配置されている。施設の性格が違う。手続をスマイルキッズで行うためには人員配置も必要である。

山田伸幸副委員長 スマイルキッズに子育て支援課を置くことが合理的ではないか。市役所に置いておく理由があるのか。

川崎子育て支援課長 スマイルキッズを整備するときに検討したが、転入や転出など、本庁の行政手続に関連して手続する事例が多く、移転すると市民サービスの低下になると思っている。

大井淳一郎委員 子育て支援サイトを充実させていく必要があるのではないか。

別府子育て支援課課長補佐 充実させていかなければという思いはあるが、具体的な方向性は定まっていない。

大井淳一郎委員 ホームページの改修をする予定はあるか。

別府子育て支援課課長補佐 ホームページの改修を近々やる予定と聞いており、現在のものより、見やすく、探しやすいものにしてもらいたいということとは伝えて、協議もしている。

矢田松夫委員 スマイルキッズは、保健と教育は対応できるが、福祉のボリュームが少ないと感じるが、どうか。

川崎子育て支援課長 保健部門は母子保健事業を行っており、充実していると思っている。子育てに関する相談支援等の福祉部門も頑張っている。教育部門は施設の規模の問題もあり、そこまで取り組めていないが、今後研究したい。

山田伸幸副委員長 医療費助成の見直しは考えているか。

川崎子育て支援課長 28年度に拡充し、更に拡充するためには財源が必要で、簡単にはできないと思っている。他市の状況も注視し、今後検討したい。

吉永美子委員長 中学卒業から18歳までの子どもに対する支援策はないのか。

川崎子育て支援課長 スマイルキッズでも家庭児童相談やココシエでは中学生以上の子どもの対象に相談窓口を開設している。

吉永美子委員長 大分ではほっとクーポンなど充実しているが、山口県はどのような取組を行っているか。

川崎子育て支援課長 やまぐち子育て応援パスポートという事業をやっている。

18歳未満の子どもがいる家庭や妊娠中の家庭が登録すれば、県がパスポートを発行し、登録店で提示すれば様々な特典が得られるものである。

吉永美子委員長 子ども・子育て協議会では、子ども条例を「作るべきではな

い」という意見だったのか。

別府子育て支援課課長補佐 「子ども条例」は理念的なことが多く、アピールすることが主な目的であるなら、制定の必要性は感じず、制定に必要な多大な時間を実際にできることに費やすべきであるという意見が大半だった。

吉永美子委員長 県内の状況はどうなっているか。

別府子育て支援課課長補佐 平成24年1月時点、全国で116の自治体で子ども条例を作っており、県内では山口県と宇部市が制定している。

吉永美子委員長 今は山口市も作ったのではないか。

別府子育て支援課課長補佐 今はそうである。

吉永美子委員長 基本理念は重要だと思っている。

4 所管事務調査 地域福祉計画・地域福祉活動計画について（社会福祉課）

【議事の概要】

- ・地域福祉計画・地域福祉活動計画の概要及び内容説明並びにパブリックコメントの結果についての説明

【主な質疑】

大井淳一郎委員 4年計画だが、総合計画に連動しているのか。

岩佐社会福祉課長 そのとおりである。

杉本保喜委員 ボランティア団体を支援する体制整備を具体的にどのように進めていくのか。

岩佐社会福祉課長 地域福祉計画は行政として理念や仕組みを作るようになっている。具体的な活動は福祉活動計画で社会福祉協議会が行うようになっている。

杉本保喜委員 計画はできたが、アクションプランが必要ではないか。

岩佐社会福祉課長 計画を推進していく委員会を立ち上げ、行動計画を策定し進めていきたい。

山田伸幸副委員長 「歯止めの掛からない少子高齢化」とあるが、少子化対策と高齢化対策は別々のもので、一くくりにすべきではない。また、少子化は歯止めに掛けるべきだが、高齢化は喜ぶべきものである。福祉部門としては、それを肝に銘じてもらいたい。

杉本保喜委員 民生委員が決まらない地区があるが、その解決策はあるのか。

岩佐社会福祉課長 来年度改選期だが、全地区決まるように努力していきたい。

杉本保喜委員 民生委員が決まらない地区に、うまくいっている地区の人たち

の話聞かせることも重要ではないか。

岩佐社会福祉課長 民生委員の部会や理事会で話をしながら進めていきたい。

山田伸幸副委員長 地域の支え合い協議体など地域でやることが多く、負担になっているのではないか。

兼本福祉部次長 各地区から様々な組織を作っても、担い手が一緒という話を出ている。防災や学校、高齢者の支え合いなど一体的に取り組める組織ができるのが理想ではある。既存の組織体と一緒にできないかは模索中である。

山田伸幸副委員長 地域では資金が足りないことが多い。補助金などで支えるべきではないか。地域の実情が分かっているのか。

兼本福祉部次長 協議体に限って言えば、原資がないという話は聞いている。最低限必要な消耗品等の経費は補助できればという考えは持っており、各地域から要望が出れば、市としても対策を取りたいと考えている。

杉本保喜委員 要望を待つのではなく、積極的に対策を取るべきではないか。

岩本福祉部長 地域福祉計画が掲げる「我が事・丸ごと」は地域の課題を自分の問題として考え、お互いが支え合い、生きがいを持って暮らすことのできる地域共生社会の実現であり、現状は市からお金を出すという合意はできていない。

山田伸幸副委員長 様々な組織を作っても、メンバーは大体同じである。国の言いなりではなく、それらを一つにするなど、山陽小野田市モデルを作るべきではないか。

岩本福祉部長 分野に分けて考えていく必要がある。教育、防災、福祉をまとめてという話にはならないのではないか。

山田伸幸副委員長 福祉分野だけでもまとめることはできないか。

岩本福祉部長 支え合いの地域づくりについては、社会福祉協議会が取り組んでいる「どうしちよるネット」「三者交流会」の仕組みと類似し、同じ方向性で取り組めるので、来年度以降、協調して取り組んでいきたいと考えている。できるだけ地域に負担が掛からないような仕組みは考えていきたい。

大井淳一郎委員 社会福祉協議会と市が持っている情報を共有するのか。

岩本福祉部長 検討し、できるなら、複合的な目的を持った組織に変えることを検討してみたい。

大井淳一郎委員 第二層協議体を進めるための指針はあるか。

兼本福祉部次長 各校区にコーディネーターを配置し、市全体の取りまとめ役として高齢福祉課の社会福祉士がコーディネーターとなり、相談や地域

に出向いている。コーディネーターを通し、方向性を定める組織として
いる。

大井淳一郎委員 第二層協議体はどのような活動をしていけばいいのか。

兼本福祉部次長 地域の状況やニーズを把握し、地域に必要なサービスは何か
を考えることである。

大井淳一郎委員 地域福祉計画は社会福祉協議会と協働して作ったと思うが、
計画を進めるためには、これまで以上に社会福祉協議会との連携が必要
ではないか。来年度、何か変わっていくことがあるのか。

岩本福祉部長 最低でも年に1回は協議する場を設けたいと考えている。

杉本保喜委員 あんしんキットの存在は救急隊員も知っているか。

岩本福祉部長 消防局も把握している。

杉本保喜委員 地域の実情をどのように把握するのか。

岩佐社会福祉課長 現在、具体的な手段は考えていないが、民生委員や自治会
長の話聞き、また、社会福祉協議会と連携していくことになると思っ
ている。

山田伸幸副委員長 様々な具体的な数値が記載されているが、車椅子でなけれ
ば移動できない人たちに対する指標も設けるべきではないか。

岩佐社会福祉課長 記載している目標指標、数値は主に総合計画に記載してい
る数値である。担当部局において、その目標に沿って業務を進めるもの
だと考えている。

杉本保喜委員 三者交流会の出席率は33年度に80%を目標としているが、
この根拠は何か。

岩佐社会福祉課長 社会福祉協議会が出している目標であり、これに向けて頑
張るという意思表示ではないかと考えている。

平成31年1月18日

民生福祉常任委員長 吉 永 美 子